

ユニフォームレンタルのメリットを再認識 コストに変えられない付加価値を訴求

経済状況が上向き兆しが見られる中、ユニフォームレンタル業界においても新たな動きが見え始めているという。リネンサプライのリーディングカンパニー、新日本ウエックスの廣瀬純平社長に業務用ユニフォームレンタルの最新動向と今後について伺った。

統一と見直し進む業務用 ユニフォームレンタル

長引くデフレ経済下で価格低迷に苦しんできたリネンサプライ業界。それはホスピタリティー業界が利用するリネン類においてもまた、しかりである。中でもホテルやレストランの従業員が着用するユニフォームに関しては、顧客サービスに直結しないアイテムだけに必要以上にコスト削減が行なわれてきたケースも少なくない。しかし、経済状況の変化とともに少しずつではあるが、新しい動きが見えてきている。

「最近の動向として“統一化”と“見直し”があげられます。これは新規ホテルに限らず、既存のホテルにも共通しており、ユニフォームに対する考え方にも変化が現れ始めているように感じています」(廣瀬社長)。

また、この機会にユニフォームを購入からレンタルへ変更するなど、交換基準も統一化する場合が多いという。こうした動きは、ホテルやレストランにとっても、リネンサプライ業界にとってもスケールメリットによるコスト削減につながるとしている。

デザインを見直すケースも顕著に現れている。これまで日本のホテルは欧米に倣ったユニフォームを取り入れてきたが、インバウンドの増大により日本らし

さを演出した“和モダン”のようなデザインを提案してほしいというケースもある。

また、レストラン関連では、主流だったモノトーンからコンセプトの表現やインテリアの一部としてとらえたデザインやカラーも増えている。コックコートでは、デザイン性の向上が図れるTC(ポリエステル:コットン=65:35)素材への品物変更も多くみられるそうだ。サプライヤーにとっても手間のかからない蒸気プレスに換えられるので、両者ともにメリットのある提案となっている。

ユニフォームレンタルの メリットを理解し運営に一役

廣瀬社長は、ユニフォームレンタルをホテルやレストランの運営に最大限に活用してほしいと話す。品質や導入価格はもとより、ランニングコストや衛生管理など現場での業務軽減に役立つことは間違いないからだ。アウトソーシングすることで煩わしい管理業務から開放され、本来の業務に注力できるようになる。また、ランニングコストについては、毎月のコストを固定化することができ、結果的に一般のクリーニング業者に出すのとほとんど変わらないコストで、ユニフォームレンタルを利用することができる。

一方で最近リネンサプライに適さないデザイン性の高いアパレル品を自



新日本ウエックス 廣瀬純平社長

社で購入し制服採用する顧客が増えている。もちろん技術的に対応は可能だが、事前のチェックで縮みや型崩れなどの問題点を発見し、再検討を促すことで、無駄な費用をかけない提案をする機会も増えているそうだ。

さらに同社の120万着のユニフォームにはICチップが埋め込まれ、インターネット上で使用状況や所在をリアルタイムで確認できるWEXLIVEによって、従業員の衛生管理も可能だという。

「ユニフォームは従業員の自社ブランドに対する愛着を深め、モチベーションアップにもつながる重要なアイテムです。また、それに加えて大手食品工場などではリネンサプライの有効性に理解を示していただける企業も増えています。われわれはまだその点のPRが足りていないお客さまにアプローチし、納得していただける努力が必要だと考えています」(廣瀬社長)。

デフレからの脱却が現実味を帯びてきた昨今。これを機会にユニフォームレンタルの存在意義を再考してみてはいかがだろうか。